

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	テレサ苑が林崎地区の一員となる事で、入居者様一人ひとりが地域の中で、支えあいながら生活できる事を目標に、まずは苑が地域に溶け込めるような理念を掲げている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念と運営方針を事務室に掲げており、職員が出勤時及び申し送り時に確認できるようにしている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族来苑時に見やすいよう、事務室に理念及び運営方針を掲げている。また、地域には苑便りに載せる事で理解してもらえようようにしている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会に加入しており、回覧板等で地域の活動を確認して参加している。(林崎地区の神社の草取りや研修センターの掃除) ・テレサ苑主催の林崎夏祭りの時は、町内の人々に協力してもらいながら盛り上げている。 ・職員には苑周辺で入居者の付き添い散歩する時の挨拶は勿論、車ですれ違った際でも頭をさげて挨拶をするように伝えている。 ・林崎町内の人は、お盆にお墓にあがったお菓子をくれたり、野菜や不要になったオムツ類を持ってきてくれる。 ・苑正面に自動販売機を置き、地域の人が気軽に立ち寄れるような雰囲気作りに努め、実際にジュースを買う時に挨拶を交わしたりしている。 	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員に外部評価の目的を伝える事で、現状維持ではなく、今後どうしたらもっと入居者にとっての理想の生活を提供できるかを考えてもらうきっかけ作りとしている。	
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で提案された議題について、全体会議で職員の意見を聞きながら取り組んでいけるかどうかを検討して実行している。	
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・運営していくうえで、迷ったりわからない事があった場合は、電話連絡か直接役場に行って確認をとっている。 ・お互いの立場を理解し、それぞれの立場での情報交換を行っている。	
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在利用されている方はいないが、以前に地域権利擁護事業を利用するか検討したケースがあり、情報を収集するために社会福祉協議会へ聞きにいったことがある。	○ 今後も勉強会にて様々な制度を理解してもらい、個々の職員のスキルアップを図っていきたい。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法についての勉強会を行い法律に関して学んでいる。また、職員が頻繁に使用する場所に高齢者虐待防止法のリーフレットを掲げ、常に意識しながら取り組めるようにしている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている		
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている		
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている		
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている		
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている		
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は極力しないようにしているが、やむを得ず異動が必要な場合は、十分な引継ぎの時間をとり、入居者様に負担やストレスがかからないように配慮している。		
5. 人材の育成と支援			
17 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の予定が事前にわかっている時は、日にちを考慮して職員が参加できるように勤務表を作成している。		消防組合で開催されている普通救命講習、防火管理者研修、接客マナー講座、他事業所での研修、人材育成マンパワー強化研修会、社会福祉援助技術の基本研修、介護予防アクティビティリーダー養成講習会に参加。
18 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町で開催される研修会等に参加し、他グループホームの方々と交流を図っている。また、管理者は他事業所に出向く機会を多く持ち、意見を交換し合っている。		
19 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の休憩室を2階にもうけ、休憩中は入居者と距離をおけるようにしている。		
20 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	・代表者はほぼ毎日グループホームに足を運び、変わった事とがないか管理者及び計画作成担当者を確認するとともに、意見を交換できる機会がある。 ・施設長が各職員の職能評価を行っており、自分の優れている所と改善部分を知ることによって更に向上心を持って勤務できるようにしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に管理者及び計画作成担当者が面談を行う事で入居する際に、面識がある人がいるという安心感につなげている。また、本人とご家族が見学を通して十分に考えながら入居に至るように努めている。	
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自分たちだけで解決しようとは考えず、包括支援センターや関係機関と連携し、適切な支援ができるようにしている。	
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・本人やご家族に見学してもらったり、事前に管理者及び計画作成担当者が面談する事で安心感につながるように配慮している。 ・やむを得ず緊急的な入居の場合であっても、ご家族には頻りに面会に来てもらえるようお願いして不安を増長させないように配慮している。	
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	それぞれの個人の得意な分野を行かすことで、自信につながっていくように支援している。職員と入居者様が一緒に行う事で、教えてもらったり教えたりの良い関係が築けるようにしている。 ・職員が入居者様へ相談するような関係も築けるように努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	細かな情報をご家族の方と共有できるように、日々の状況を来苑時にお話ししたり、手紙等でやりとりを行い、離れて暮らしていても入居者様とご家族の距離が遠くならないように努めている。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・入居前にご家族には協力をお願いし、入居してからも連携しながら、その人の望む生活を実現できるようにしている。 。入居料の支払いは払い込みではなく、月1回は必ず面会してもらえるようお願いしている。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来苑しやすい雰囲気作りに努め、入居前に親睦のあった方との関係が崩れないようにしている。行事があれば伝える事で来苑して貰い、今までの関係を大切にできるようにしている。		
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一人で孤立してしまわないように、入居者様同士の関係には十分配慮している。トラブルがあった際には、職員がすぐに介入する事で長引いたり、他に影響がでないようにしている。		
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去された後でも、何かあればいつでも相談してもらえるように話している。 また夏祭りへの参加を呼びかけたり等、交流を保てるようにしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日々のかかわりを多くとることで本人の思いをくみ取るように配慮している。言葉で話せない方とは、表情や行動等で思いや気持ちを探り、支援を繰り返しながら1番良い状態はどれなのかを検討している。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居前にご家族から生活歴や好きな事、不快なもの等、細かい情報を収集し毎日の支援につなげていけいけるようにしている。 ・入居前に職員とカンファレンスを行う事で、ご家族から収集した情報を共有し、同じ方向で支援できるように努めている。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの性格や生活リズムを大切にし、自由に圧迫感のない生活に心がけている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、ご家族の要望を汲み取り、一人一人がよりよい環境であずましい生活ができるように、職員からの日頃の情報を集めて意見を聞きながら計画を作成している。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の関わりを通して、職員から情報を収集し、計画に見直しが必要となった場合は、本人・ご家族を相談しながら計画の変更を検討している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人のファイルを用意し、職員が気づいた事や見た事、入居者様の気になる発言等に関しては記録してもらい、職員間で共有できるようにしている。 ・ケース記録を見ただけで、今日1日の状態がわかるような記入の仕方を職員に伝えている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・現在、ショートステイや医療連携の加算の機能はない。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	グループホームホームが奥まった場所にあるため、警察に定期的なグループホーム周辺のパトロールをお願いして行ってもらっている。 ・災害や入居者様行方不明時に備え、地域の協力体制を整えている。		
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・ご家族の協力のみで、他のサービスは利用した事はない。	○	一人一人の要望に合わせて様々なサービスを利用していきたい。
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加するようになり、様々な情報収集ができるようになった。また地域包括支援センターから緊急的な入居の相談があった際は状況に応じて対応する等連携を図っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にかかりつけ医を確認し、引き続き受診できるように配慮している。かかりつけ医を変更する際は、本人及びご家族とよく相談し慎重に行っている。		
41 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関に精神科の病院があり、認知症に関する相談や助言を仰いでいる。認知症の専門医ではないものの、認知症に関する知識を有している医師に相談できるようにしている。		
42 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力医療機関との連携が強いため、看護資格を所持する職員や訪問看護ステーションの看護師は配慮していない。協力医療機関の看護師にいろいろな助言を仰いでいる。		
43 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	協力医療機関は入院によるリスクに関して理解があるため、早期退院に努めてくれている。入院後は頻繁に見舞いに行き状態把握のため、医師や看護師に状態を確認している。		
44 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	早い段階でご家族と重度化した際の方向性について話し合っているが、実際に重度化した際には本人の意向・ご家族の意向を確認し、医師に相談しながら事業所でどこまでケアできるのかを検討している。		
45 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化した際は、本人及びご家族に今後どのように暮らしていきたいのか意向を確認し、事業所で対応できる部分は最大限に行い、出来ない部分は協力医療機関を連携をとってすすめていくようにしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>他の事業所に移られた場合は、情報提供を密に行い、継続されたしえんにつながるよう努めている。また、面会に行く事で精神の安定につながるよう努めている。</p>	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
47	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・その人の性格を理解する事で、プライドを傷付けない対応方法に努めている。 ・羞恥心に配慮して、排泄等の声かけはさりげなくするように伝えている。 ・記録類に関しては、書庫にしまい見えないようにしている。 	
48	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>日々の関わりを通して、表情や行動等で気持ちを探り検討を繰り返しながら、希望に近づけるように努めている。</p>	
49	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員のペースで時間が流れていかないよう、出来るだけ入居様のペースを守ってもらえるように伝えている。 ・トイレ誘導等の促しの際でも、その人の今の状態、機嫌、ペースを大事にしながら声かけをするように伝えている。 	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
50	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>昔からのなじみを大切に、理美容は入居前から行っていた場所へ送迎している。また、髪を切った後に声をかけたり、鏡をみてもらおうようにしたり、着ている洋服に関する話題を提供する事でおしゃれをする気持ちを忘れないよう支援している。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・食事制限等がなければ、希望に合わせて白いご飯にふりかけをかけたり、食事が楽しい時間になるように心がけている。 ・野菜のすじ採りや、皮むき等を行ってもらう事で、自分達も調理に参加していると認識できるようにしている。		
52 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・煙草は管理者が預かり、本人の希望するときに手渡し見守りにて苑外の喫煙場所で喫煙してもらっている。 ・病院受診の帰りに一緒に買物をしたり、時間があれば買物に出かけたり、買物代行する事で好きな物を食べられるようにしている。		
53 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	日中はオムツの使用を避け、トイレ誘導で気持ちの良い排泄ができるように心がけている。また、リハビリパンツから布パンツへの導入も職員間で検討しながら実行している。		
54 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日以外は、午前と午後どちらでも入れるようにしている。また、お湯の温度や時間配分等もそれぞれの人に配慮しながら、個別の対応をしている。 ・入浴中は職員のマンツーマンになれる時間であるため、入浴時に話せない事を聞きだしたり、コミュニケーションを密に図っている。		
55 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・談話室にソファを置いたり、廊下にイスを用意する事で、好きな時にゆったり休めるように工夫している。 ・自発的に言えない人に関しては、職員が配慮して休めるように対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・まだまだ自分は出来るんだと認識してもらうため、野菜の栽培方法を聞いたり、その人が得意な事に関しては、職員が教えてもらう事を基本としている。 ・その人の性格に合わせて、得意であろうと思われるものに関しては、やれるような機会を提供している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の了解を得た上で、小銭程度であれば自分で持ってもらっている。		
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・冬期間以外は、毎月1回はどこかに外出している。 ・天気が良い日はなるべくお日様に当れるよう、苑外散歩に誘っている。 ・花壇の水遣り等、なるべく外に行ける機会・きっかけを増やしている。		
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・日頃の会話から入居者様が何を望んでいるのか探りながら、ご家族と相談したうえで叶えられるようにしている。 家族と昼食を食べに出かけたり、温泉旅行に出かけたりされている。		
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話は事務室に置いており、特別な場合を除いて希望する人にはいつでも使用できるようにしている。また、必要に応じて番号を押したり、代わりに話すなど適宜行っている。 ・手紙はプライバシーに配慮したうえで、ポストへの提供を代行している。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・入りづらい、来にくい場所とならないよう、明るい笑顔での挨拶を基本とし、誰でも気軽に来苑できるような雰囲気作りに努めている。		


項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援			
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束に関する研修を実施し、どのような行為は身体拘束にあたるのかを伝えている。また、職員には身体拘束は行わないという誓約書を書いてもらっている。 ・身体拘束に関するリーフレットを職員がいつも確認できるところに掲げている。	
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室にはカギは使用していない。正面玄関に関しては、カギをかける事でのストレス等について十分把握はしているが、安全のためにやむを得ず施錠している。 ただし、施錠しているから開けないのではなく、散歩等の希望があればカギをはずして外へ出れるようにして、閉塞感を感じないように心がけている。	○ 万全な体制を整えて、施錠しないグループホームを目指したい。
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中・夜間ともに時間ごとに所在と様子を確認し、記録を行い変化に迅速に対応できるようにしている。	
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険な物でなければ、そのまま置いておく事で安心感を持ってもらえるようにしている。回収する時も声がけには十分配慮して	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・事故防止のために研修を行っており、緊急時に対応できるようにしている。また、緊急時の対応マニュアルを作成し、職員が確認できるようにしている。 ・日々のヒヤリハットを記録してもらい、職員の共有確認を図っている。 ・事故発生時は迅速に事故報告書を作成し、全体会議にて事故原因や防止策を検討して事故防止に取り組んでいる。		
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防で開催されている普通救命講習に職員が参加する事で、応急手当やAEDの使用方法を学んできている。また、新人職員に対して、応急処置の方法等を学んでもらっている。		
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・入居様全員と職員で年に二回避難訓練を実施している。 地域の方々と連携し、災害時にどのような協力を仰ぐのかを明確にしている。 ・防火管理者の講習を受けた職員が、毎日々火元となるような場所はないか確認し記録している。		
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	・その人に考えられるリスクがある場合は、事前に家族に相談し対応方法を話し合っている。 ・簡単な解決方法で済ませるのではなく、最大限にその人の自由を損なわないような方法を考えるように努めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルの測定にて普段の状態を把握し、いつもと違う時は再検して経過を確認し、迅速な病院受診にて対応している。 ・職員には日頃から、些細な変化も見逃さないよう、気になる事があればすぐにリーダー及び計画作成担当者、管理者へ報告するように伝えている。		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・内服薬の情報をケース記録に保管する他、個人の内服情報をファイルにまとめ、変更がある度に修正して常に最新の情報がまとめられているようにしている。 ・内服薬には名前と日付と朝・昼・夕が確実にわかるように記してあり、変更があった場合は日誌にて申し送っている。 ・服薬の際は、名前と日付と朝・昼・夕の確認を入居様と職員がお互いに出来るように口頭で話しながら間違いのないようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	個々の排便状況を把握し、適切な下剤使用にて便秘にならないように支援している。排便を助けるよう、食事には食物繊維を多く含んだものを使用するように努めている。便秘予防体操を毎週月曜日に行っている。		
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアを実施している。口腔ケア時の声かけには十分配慮している。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事・水分の摂取量は確認し、食欲低下や水分不足と思われる場合は、申し送り時に周知し、無理のない改善ができるようにしている。 ・管理者及び計画作成担当者に報告してもらい、必要に応じて病院受診し医師に相談している。		
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	・感染症に関する取り決めがあり実行している。 ・ご家族から同意をもらい、インフルエンザ予防接種を全員している。（職員も全員行っている） ・手拭きはペーパータオルを使用し、ハイターを使用して清掃をしている。 ・感染症についての勉強会にて、感染症の理解を仰いでいる。		
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・調理器具及び食器類は定期的な消毒を行っている。買物はこまめに行き、賞味期限に十分気をつけて調理している。 ・台所の衛生管理については、取り決めを作り実行している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・正面玄関付近に花壇や花を置くことで、明るい雰囲気作りに努めている。 ・自動販売機を設置する事により、気軽に立ち寄れる雰囲気作を演出している。	
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	五感刺激によるストレスについて勉強会を行い、気居心地の良い環境作りに努めている。家具は奇抜な色のあるものは使用せず、温かみのある色で統一している。	
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	全員が集まるホールだけが居場所とならによる、談話室にあるソファ、廊下にイスやテーブルを設置し、あらゆる場所でくつろいでもらえるように努めている。	
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・自宅で使用していた物を持ち込んでもらえるようをお願いしている。寝具等は全て、自宅から持ってきてもらい、業者は入れていない。 ・ご家族の写真を持って来てもらうことで、安心感を持ってもらえるようにしている。	
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	臭いに関しては十分配慮し、換気扇の定期的な使用や窓を開けて空気を入れ替えを行っている。 1日に3回、温度と湿度を管理し調整を行っている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・建物は車椅子の方でも使いやすいように設計されている。 ・職員の意見を取り入れ、入居者及び職員が使いやすいように、会社代表が補修や改善をその都度行っている。	
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	認知症を否定的に捉えず（マイナス部分のみに着目せず）その人の能力を最大限に活かして自信につながるような支援に努めている。	
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・敷地内に野菜畑を作ったり、ベンチを置いて日光浴できるようにしたり、苑内に低周波をおいて対症療法を行っている。 ・テレサ苑主催の林崎夏祭りは、敷地内で行っている。	○ 地域包括支援センターと連携し、認知症についての講習会を開催する事で認知症の理解を仰ぎたいと考えている。また、介護全般に関わる身近な相談窓口的な役割を担いたいと思っている。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・一人ひとりの性格を大切に、その人に合った支援を模索しながら常に努力する姿勢を忘れないように努めている。
- ・もう出来ないから、無理だからと初めから決め付けるのではなく、最大限までその人の力を引き出しながら希望をかなえるためにはどうしたらいいのかを追求して行く姿勢を忘れないようにしている。
- ・御家族や町内の人々に空き缶集めに協力してもらい、リサイクルに出して交流のある幼稚園に絵本代として寄付したり、入居者様の外出時のおやつ代に利用している。
- ・2階で猫2匹を飼っており、動物好きの入居者様と遊んだり休憩中の職員の癒しとなっている（嫌いな入居者様のいるため、主に2階にいる事が多く、職員が配慮しながら1階に連れてきて入居者様と遊んでいる。
- ・代表者が苑内の補修箇所を修理してくれたり、職員の意見を聞いて必要な設備等を増設してくれたり理解があり距離が近いので意見が言い易い。